2008年度
第2四半期決算説明会

2008年 11月10日

三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長	酒井　和夫
天然ガス系化学品カンパニープレジデント	山崎　慶重
特殊機能材カンパニープレジデント	宮坂　一博
芳香族化学品カンパニープレジデント	塚本　耕三
機能化学品カンパニープレジデント	倉井　敏磨
財務経理センター長	杉田　克彦

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2008年度
   第2四半期決算 および 業績予想
2. 質疑応答

配付資料

- 説明スライド コピー
- 決算説明会参考資料
- 2008年度第2四半期決算短信
- ニュース・クリッピング集
- MGC CORPORATE DATA BOOK 2008
- アンケート用紙

連結　2008年度 第2四半期実績

【億円】

	08年度 第2四半期累計	07年度 第2四半期累計	増減	増減率
売上高	2,692	2,506	186	7.4 %
営業利益	96	226	▲ 130	▲ 57.5 %
持分法利益	108	115	▲ 7	▲ 5.7 %
経常利益	200	319	▲ 119	▲ 37.5 %
税前利益	188	275	▲ 87	▲ 31.5 %
中間純利益	146	208	▲ 62	▲ 29.9 %

	08年度 第2四半期末	07年度末 （`08.3.31）	増減	増減率
有利子負債	1,548	1,506	42	2.8%
総資産	6,064	6,014	50	0.8%

- 販売数量は、ポリカーボネート・フィルムや電子材料が大幅に減少する一方、メタノールや汎用芳香族製品などが増加。
- 販売価格は、全般に原燃料高の影響を受け、メタノールや汎用芳香族製品を中心に大きく上昇。
- 単体売上高は＋179億円
（数量要因：48億、価格要因：131億）
- メタノールや、キシレンなどの原料価格が上昇するも価格転嫁が遅れ、更に償却費や修繕費などの固定費が大きく増加し、大幅営業減益。
- 持分法利益は、海外メタノール会社はドルベースで増益も円高により前年同期並み。三菱エンジニアリングプラスチックスは、ポリカーボネートの悪化で減益。
- 特別損益は、土壌汚染訴訟に関連して公害防止事業費11億円を貸倒引当金に繰り入れるも、33億円改善。

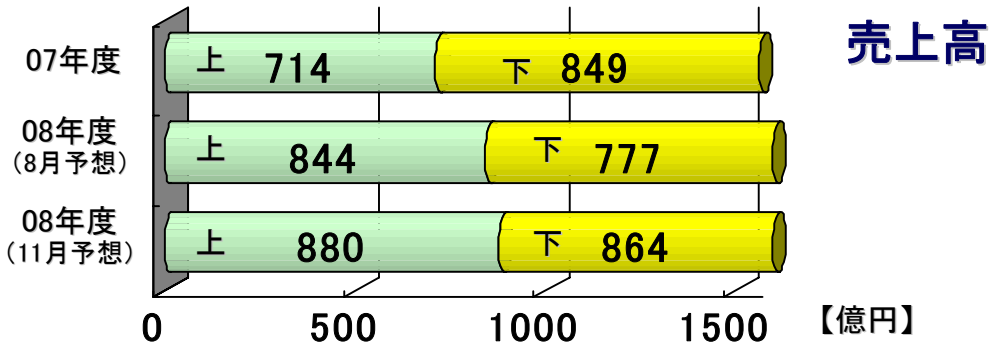
※　本頁以下に記載されている数値は、単位未満四捨五入で表記しております。

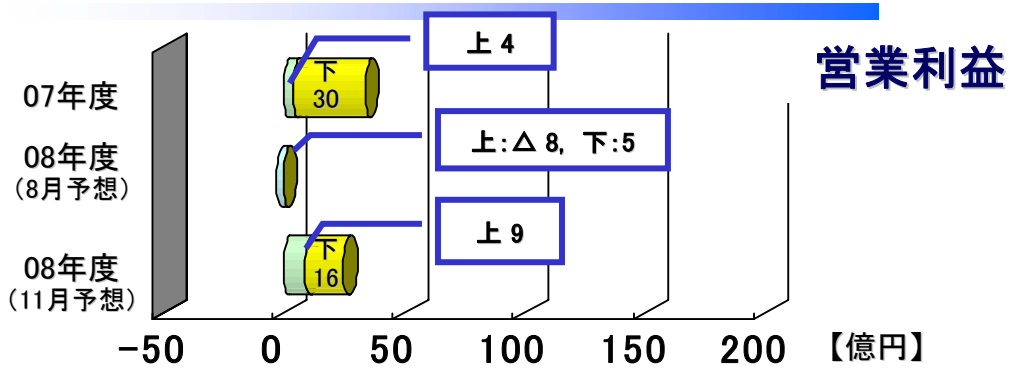
セグメント別 連結 2008年度 第2四半期実績

【億円】

	08年度 第2四半期累計	07年度 第2四半期累計	増減
売上高	2,692	2,506	186
天然ガス系化学品	880	714	166
芳香族化学品	793	714	79
機能化学品	726	744	▲ 18
特殊機能材	357	397	▲ 40
その他	6	5	1
消去または全社	▲ 69	▲ 68	▲ 1
営業利益	96	226	▲ 130
天然ガス系化学品	9	4	5
芳香族化学品	15	65	▲ 50
機能化学品	31	69	▲ 38
特殊機能材	42	86	▲ 44
その他	3	2	1
消去または全社	▲ 4	0	▲ 4

天然ガス系化学品　実績と予想





上期 実績

➢ **メタノール**

市況は4月に入り若干下落するも、中国の燃料用途需要が旺盛で想定以上で推移し、増収増益。持分法利益は、ドルベースでは増益も、円高により前年同期並みにとどまる。

➢ **メタノール・アンモニア系化学品**

全般に販売数量は減少したが、アンモニア、アミン系製品は原料価格上昇を概ね販売価格に転嫁。しかし、新潟工場の修繕費や新規ガス田試掘による探鉱費の増加で減益。

➢ **酵素・補酵素類**

コエンザイムQ10は、販売数量増加し、2Qに値上げ実施も、平均販売価格が前年同期を下回り、引き続き営業赤字。

➢ **天然ガス・エネルギー販売**

原油価格高騰により大幅増益。

下期 予想

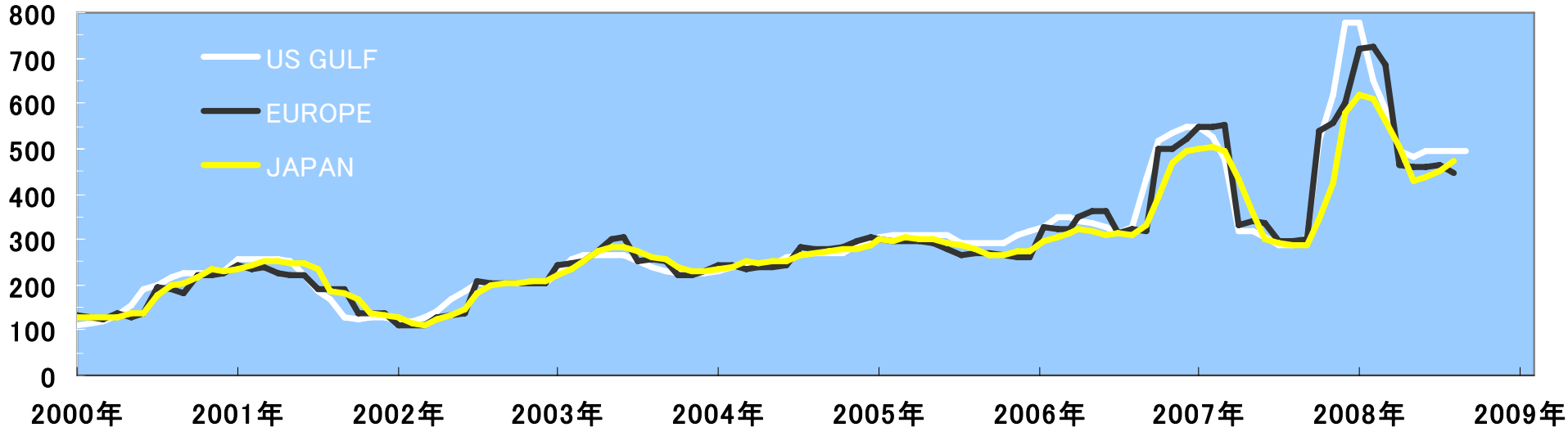
市況が300ドル程度まで下落し、減収減益の見込み。持分法利益も上期を30億円程度下回ると想定。

販売価格是正効果の顕在化に加え、修繕費、探鉱費などの固定費が減少し、増益の見込み。

引き続き販売数量が増加、平均販売価格も上期を上回り、採算改善を見込む。

原油価格の下落によりマージン低下。

天然ガス系化学品　メタノール価格の推移



（2009年の展望）

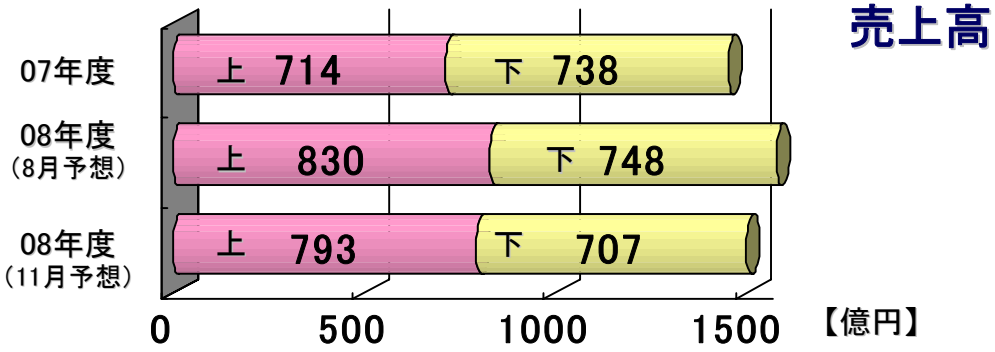
需給動向：　景気減速により世界的にホルマリンを始めとする誘導品需要が減少し、2008年前半の市況を支えた中国での燃料用途需要も原油価格の下落により減少している現状から、需要は当面弱含みで推移すると想定。一方、2008年末にマレーシアのペトロナス（170万トン）、2009年にイラン（170万トン）プラントが稼動し、需給は大幅に緩和する。

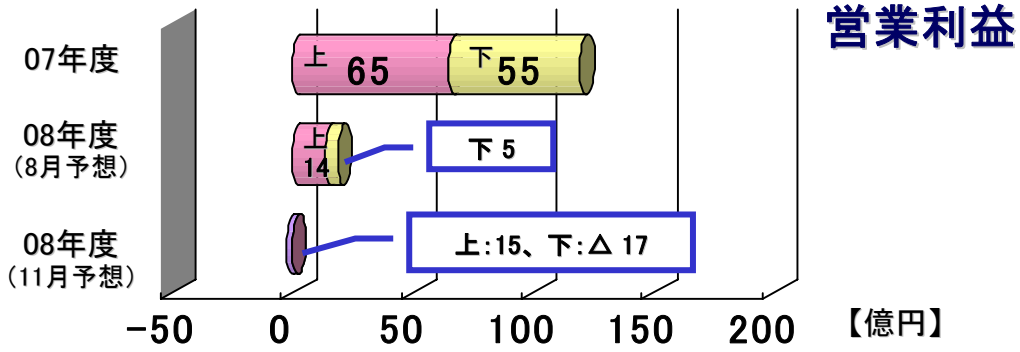
⇒ 価格動向：　市況は、需給の緩和を背景として下落基調が続き、300ドルを大きく割り込むことも想定される。

天然ガス系化学品　設備投資･製品開発動向

件名	動向	備考
天然ガス試掘	◇ 新潟県北蒲原沖合で、2008年3月から8月にかけて試掘実施 ⇒ 経済的に開発可能なガス田は確認できず	当社負担費用は期初想定27億円から15億円に減少
メタノール	ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ　170万t/y　（2008年5月稼動） ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ　85万t/y　建設中（2010年1Q稼動予定） ﾌﾞﾙﾈｲ　85万t/y　建設中（2010年2Q稼動予定） 重慶　85万t/y　FS中	
スピログリコール（SPG） ジオキサングリコール（DOG）	◇ 水島工場　1,500t/y　（併産ﾌﾟﾗﾝﾄ）　近く商業運転に移行 ⇒ SPGは、包装材用途でSPG－PET「ALTESTER®」の採用が一部で始まる ⇒ DOGは、ブルーレイディスク向け接着剤等で引き合い活発	用途> SPG：ポリマー原料、酸化防止剤など DOG：UV硬化樹脂など
燃料用 ジメチルエーテル（DME）	◇ 新潟工場　8万t/y　（2008年7月稼動） ⇒ 経済産業省の補助により、LPG･重油焚き小型ボイラー を対象として、DME設備導入促進補助事業がスタート	燃料DME製造株式会社による普及促進用プラント
特殊アミノ酸	◇ 新潟工場　建設中　（2009年2月稼動予定） ⇒ ユーザー認定取得済で、設備稼働後は本格販売実施	用途>　医薬品中間体
ピロロキノリンキノン（PQQ）	◇ 2008年8月 米国FDAが届出を正式受理 ⇒ 2008年内に米国でPQQを含有するサプリメントが販売される見通し ⇒ 市場の反応を踏まえ、早期の大型設備建設を検討	用途>　健康食品素材（ブレインフード）

芳香族化学品　実績と予想





上期 実績

特殊芳香族化学品は、メタキシレンジアミン（MXDA）やMXナイロン、芳香族アルデヒドなどの販売数量が大幅に増加するも、原料キシレン価格上昇の価格転嫁の遅れや、MXDAの償却負担の増加により、増収減益。

高純度イソフタル酸は、償却負担の増加と原料価格の上昇に加え、エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル（AGIC）と韓国メーカーの設備増強を背景とした競争激化により販売価格が下落し、大幅減益。

下期 予想

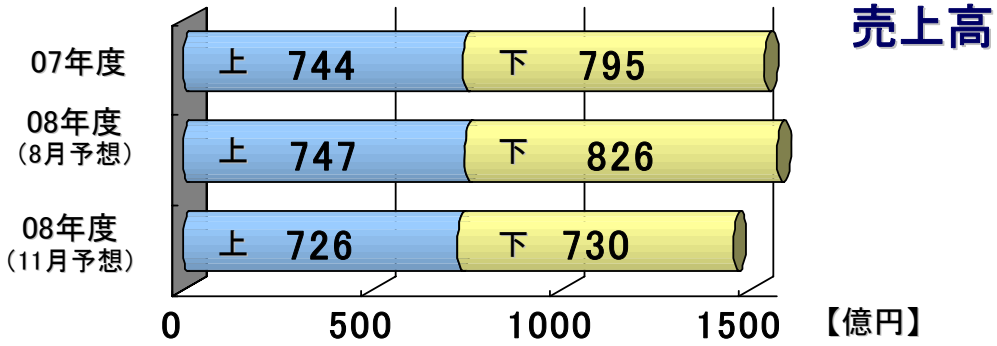
特殊芳香族化学品は、円高の影響を受けるも、販売数量の増加により、増益を想定。

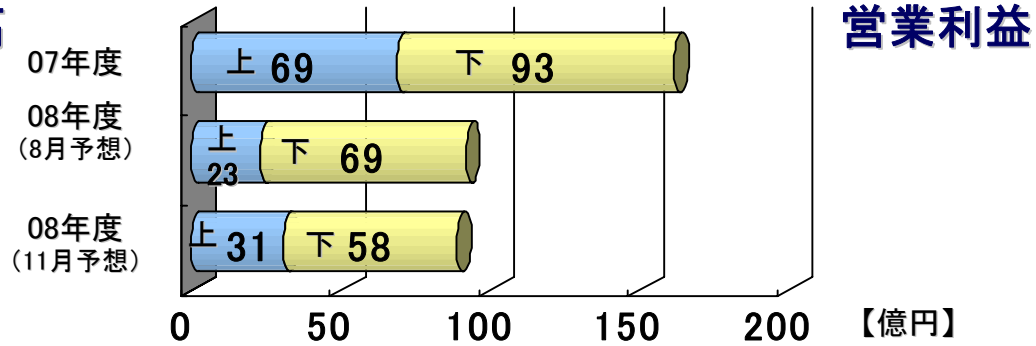
高純度イソフタル酸は、世界需要が伸び悩む中で厳しい競争が継続。更なる販売価格の下落や円高の進行が懸念され、AGICは大幅赤字の見込み。

芳香族化学品　設備投資･製品開発動向

件名	動向	備考
メタキシレン	◇ 水島工場　7万t/y　建設中　（2009年11月稼動予定）	
MXナイロン	◇ 新潟工場とMGC Advanced Polymersは来期フル稼働 ⇒　今期中に次期投資計画を決定	
高耐熱性無色透明 ポリイミドフィルム 「ネオプリム®」	◇ フレキシブルディスプレイや太陽電池向けを含め 早期実需化に向けて評価作業が進捗 ⇒ ユーザー評価を反映しフィルム品質が更に向上 ⇒ 2011年度の本格商業化（月産10万㎡）に向け 市場開発を加速	用途：透明電極基板 （ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ、光ｾﾝｻｰ、太陽電池等） 特徴：高耐熱性、無色透明
ガスバリヤ性接着剤 「マクシーブ®」	◇ 食品包装フィルム用接着剤、酸素バリヤ性塗料、 包装材料用特殊コーティング剤としての採用始まる ⇒　2011年度の本格商業化（年産2千トン）を目指す	用途：食品包装、工業材料包装ほか 特徴：ｶﾞｽﾊﾞﾘﾔｰ性を備えた接着剤
新規制振材料 「ネオフェード®」	◇ 市場開発を推進中	用途：制振材料、防音材料 特徴：振動ｴﾈﾙｷﾞｰを効率よく吸収する ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ系材料

機能化学品　実績と予想





上期 実績

➢ **工業用無機薬品**

過酸化水素は、国内需給タイト化を背景として、前期に続き販売価格を是正するも、原燃料価格上昇や固定費増加により、減益。

➢ **電子工業用薬品**

半導体・液晶・プリント配線板業界の需要が堅調で、販売数量が増加し、海外子会社も好調で、増収増益。

➢ **ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾌﾟﾗｽﾁｯｸｽ**

POMは販売数量・価格とも好調。PCは、ビスフェノールA（BPA）高止まりの中、価格転嫁の遅れと販売数量減少で減益。

PCシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ（FPD）向けフィルムの販売数量の大幅減少で、減収減益。

下期 予想

過酸化水素は、販売価格是正効果の顕在化で、採算改善を見込む。

ユーザー業界の需要の弱含みや海外子会社の収益減少により、上期を下回ると想定。

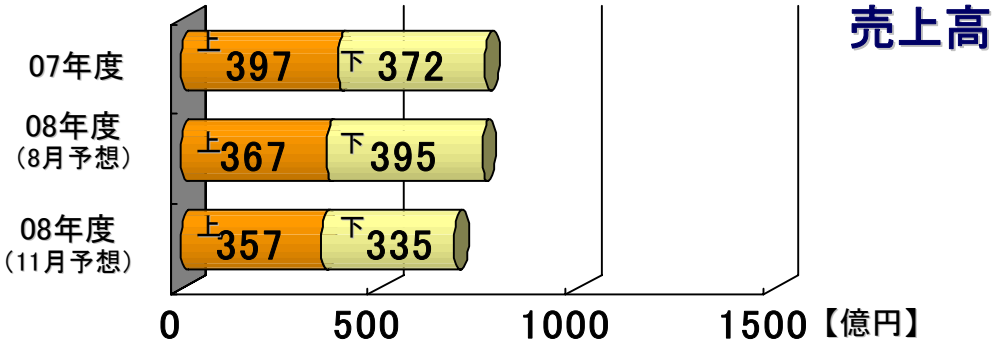
POMは堅調に推移。PCはBPA価格の下落が見込まれるも、需給が軟化する中で、下期は大きな収益回復見込めず。

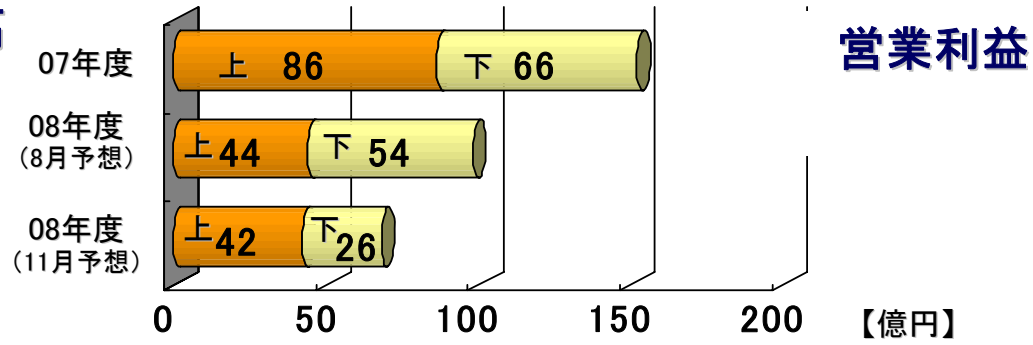
PCシート・フィルムは、FPD向けフィルムの販売数量は回復が見込めず採算悪化。

機能化学品　設備投資･製品開発動向

件名	動向
過酸化水素	◇ 中国　江蘇省 張家港　3万t/y　建設中　（2009年2Q稼動予定）
電子工業用薬品	◇ 四日市工場　超純過酸化水素　1万2千t/y　建設中　（2009年2Q稼動予定） ⇒ 山北工場、佐賀製造所に次ぐ国内3拠点体制を構築 ◇ シンガポール　化学研磨液　1千t/y 建設中　（2009年2Q稼動予定） ⇒ 東南アジアにおけるプリント配線板向け需要増大に対応 ◇ 米国　超純アンモニア水　3千t/y 建設中　（2009年1Q稼動予定） ⇒ 米国における半導体向け需要増大に対応
ポリカーボネート	◇ 上海　8万t/y　最終FS中（最適な投資タイミングを検討中） ◇ 鹿島工場　1万t/y　（2008年10月増強完了） タイポリカーボネート　1万t/y　増強中　（2008年11月完了予定） ⇒ 上海拠点が稼働するまで既存拠点の強化で対応
特殊ポリカーボネート	◇ 鹿島工場で特殊ポリカーボネート設備建設を計画 ⇒ 光学レンズ･フィルム用途をターゲットとして溶融法プラントを建設
ポリカーボネート シート･フィルム	◇ ハードコートシートは順調に需要増加 ⇒ 携帯機器の液晶カバーシートに続き、中型液晶表示パネルに用途を拡大
ポリアセタール	◇ アジアの既存拠点での早期増産を検討中

特殊機能材　実績と予想





上期 実績

➢ **電子材料**

BT材料は、販売価格下落は想定の範囲内。しかし、高機能携帯電話やメモリー向け半導体パッケージ需要の不振による大幅な販売数量減少と償却負担の増加で減収減益。LEシートも前年同期を下回る。高性能エポキシ材料は順調。

日本サーキット工業はCSP製品の販売数量減少で減収減益。

➢ **脱酸素剤**

販売数量は増加するも、円高と原材料価格の上昇により、前年同期並み。

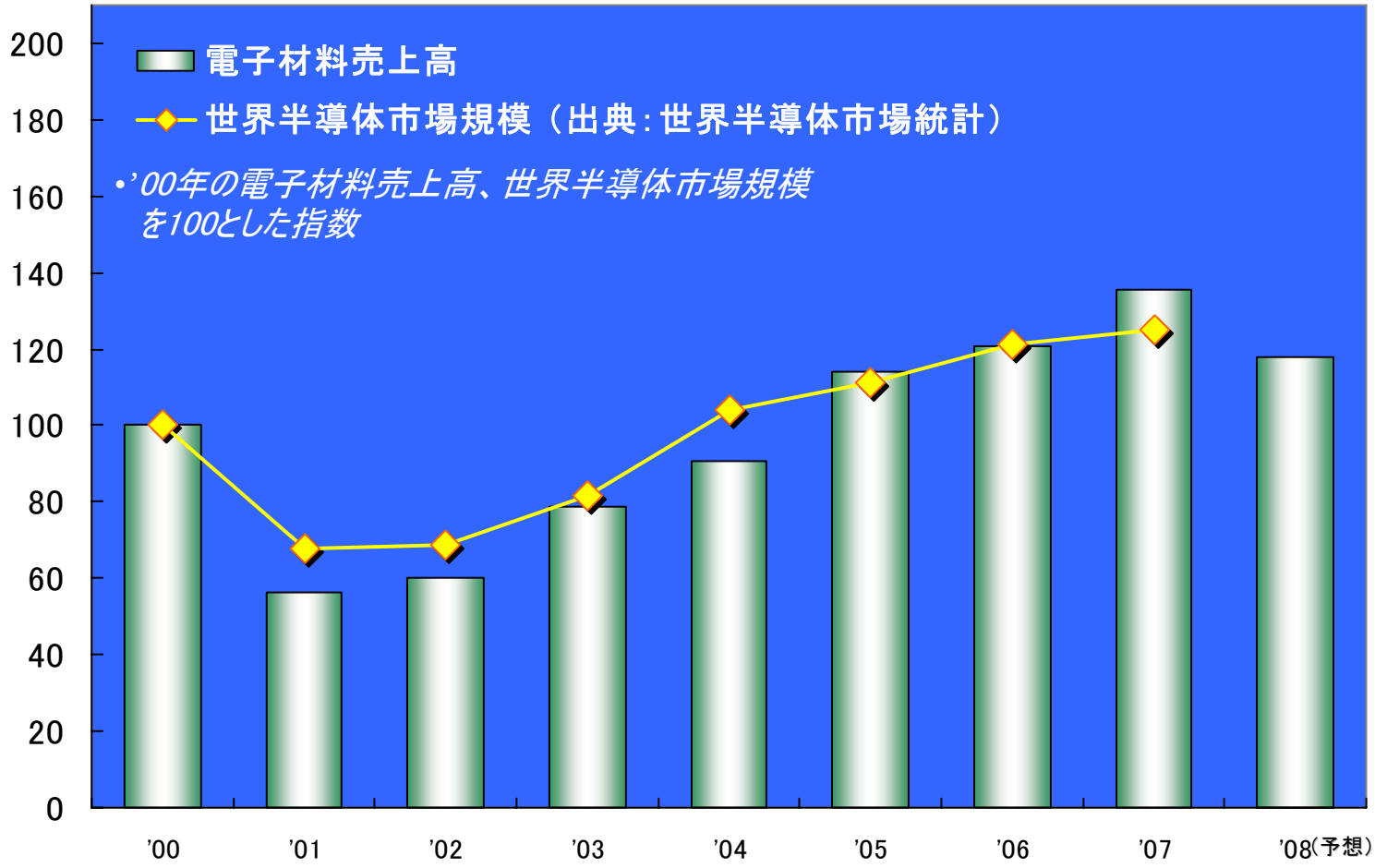
下期 予想

BT材料は、半導体パッケージ需要不振の長期化で、下期も受注が回復せず、LEシートも含め、収益は上期を下回ると想定。

日本サーキット工業は下期も低調に推移。

上期と同様の基調が続く。

特殊機能材　電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



連結 2008年度通期業績予想

【億円】

	08年度 11月予想	08年度 8月予想	07年度 通期実績
売上高	5,250	5,400	5,193
営業利益	180	210	474
持分法利益	185	210	213
経常利益	320	390	618
税引前利益	305	390	561
当期純利益	250	310	402

- 高純度イソフタル酸の販売価格と電子材料の販売数量を下方修正し、為替前提を95¥/US$として、業績予想の見直しを実施。
- この結果、売上高は8月予想比150億円減少、営業利益は8月予想比30億円減少を見込む。
- 持分法利益は、メタノール市況の下落による海外メタノール会社の減益と三菱エンジニアリングプラスチックスの業績悪化により、8月予想比25億円減少を想定。
- 特別損益は、8月予想比で損失が15億円増加の見込み。
- 配当金は中間・期末とも8.0円

次期中期経営計画

2021年
ありたい姿
～ Global Top 30へ ～

真の“高収益・研究開発型企業集団”として
持続的成長を目指す。

MGC Will 2011
(09～11年度)

売上1兆円を突破

※ 2021年は当社合併50周年

協創2008
(06～08年度)

『2021年 ありたい姿』を
実現するための第一歩

・成長拡大へ軸足をシフト
・減価償却を上回る積極投資の実行
・コア事業の一層の強化
⇒より高いステージへ
飛躍に向けた助走期間

次期中計のポイント

次期中期経営計画 『MGC Will 2011』(2009～2011年度)

Ⅰ. コア事業の一層の強化・拡充

・ ケミカルチェーン(基礎化学品から誘導品)とハイパフォーマンス(高付加価値な機能性材料)
・・・各事業の特性に応じたきめ細かな差異化戦略の策定

Ⅱ. 新規製品の創出・育成の加速

・ 成長分野(情報・電子、環境・エネルギー、ライフサイエンス、食品包装材料など)への
Ｒ＆Ｄ資源の積極的投入

・ 『協創2008』で整備した技術プラットフォームを活用

Ⅲ. 持続的成長を支える経営基盤の強化

・ 生産性の向上、既存技術のブラッシュアップ

・ 「グローバル・グループ経営」の拡充

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
広報IR部（佐藤、西村）
TEL　03－3283－5041
FAX　03－3287－0833
http://www.mgc.co.jp/

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

2008年度　第2四半期決算説明会参考資料 (1/3)

2008年11月10日
三菱ガス化学株式会社

1. 連結貸借対照表

（単位:億円）

	2008年度 第2四半期末	2007年度 期末	増減	増減率	メ モ
現金及び預金	299	303	△ 4	△1.3%	
受取手形・売掛金	1,350	1,397	△ 47	△3.4%	
有価証券	82	84	△ 2	△2.4%	
棚卸資産	775	702	73	10.4%	
その他流動資産	169	201	△ 32	△15.9%	
＜流動資産 計＞	2,675	2,687	△ 12	△0.4%	
有形固定資産	1,693	1,617	76	4.7%	増加理由：設備投資193、連結子会社増加53、減価償却△135、除売却等△31億円
無形固定資産	34	30	4	13%	
投資その他の資産	1,662	1,680	△ 18	△1.1%	
＜固定資産 計＞	3,389	3,327	62	1.9%	
資産合計	6,064	6,014	50	0.8%	
支払手形・買掛金	895	851	44	5.2%	増加理由：原材料価格・仕入価格の上昇
有利子負債	1,548	1,506	42	2.8%	
その他負債	461	537	△ 76	△14.2%	
負債 計	2,904	2,894	10	0.3%	
資本金・資本剰余金	776	775	1	0.1%	
利益剰余金	2,332	2,220	112	5.0%	増加理由：四半期期純利益146億円
自己株式	△ 43	△ 42	△ 1	2.4%	
＜株主資本 計＞	3,064	2,953	111	3.8%	
その他有価証券評価差額金	99	109	△ 10	△9.2%	
繰延ヘッジ損益	1	1	0	0%	
土地再評価差額金	2	2	0	0%	
為替換算調整勘定	△ 102	△ 42	△ 60	142.9%	
＜評価・換算差額等 計＞	△ 0	70	△ 70	△ 100%	自己資本比率：2008年度第2四半期末 50.5%、　2007年度末50.3 %
＜少数株主持分＞	96	97	5	5.2%	
純資産 計	3,160	3,120	40	1.3%	
負債及び資本合計	6,064	6,014	50	0.8%	

2008年度　第2四半期決算説明会参考資料 (2/3)

2008年11月10日
三菱ガス化学株式会社

2. 連結キャッシュフロー

（単位:億円）

	2008年度 第2四半期累計期間	2007年度 第2四半期累計期間	増減	メ モ（2008年度第2四半期累計期間の主な内訳）
現金・現金同等物の期首残高	372	413	△ 41	
営業活動によるCF	231	295	△ 64	税前利益188億円、減価償却費135億円、持分法利益△108億円、 持分法適用会社からの配当収入68億円、法人税等支払△58億円、運転資金△8億円
投資活動によるCF	△ 210	△ 94	△ 116	設備資金 △199億円、投融資資金等△11億円
財務活動によるCF	△ 17	△ 188	171	借入金・社債増減 23億円、配当金支払 △40億円
現金・現金同等物に係る換算差額	△ 6	2	△ 8	
現金・現金同等物の純増減額	△ 3	15	△ 18	
連結追加による期首現金・現金同等物増減	1	6	△ 5	
現金・現金同等物の期末残高	371	433	△ 62	

2008年度　第2四半期決算説明会参考資料（3/3）

2008年11月10日
三菱ガス化学株式会社

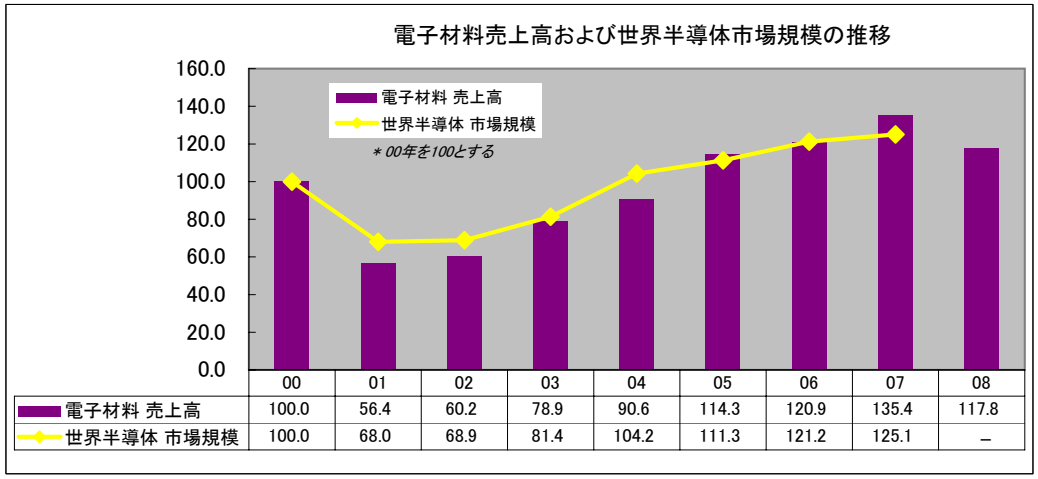
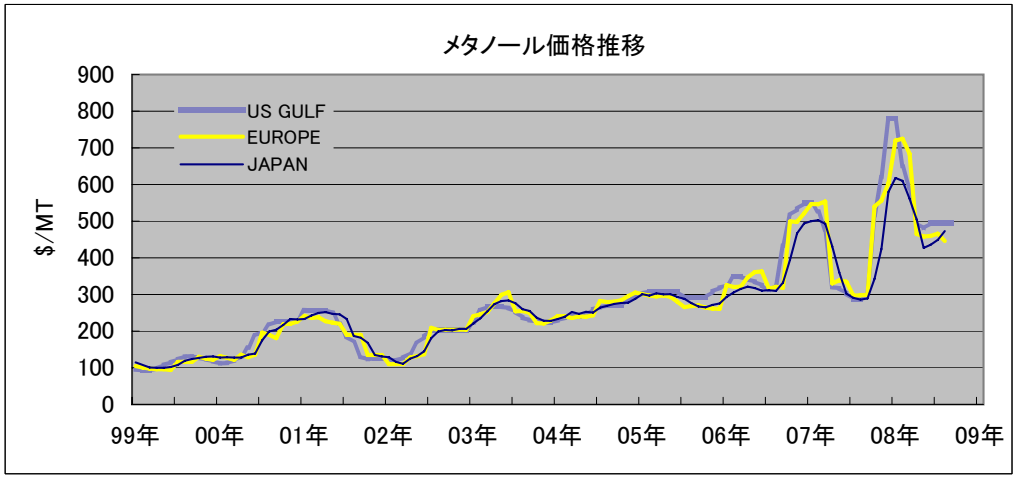
3．各種指標推移（連結）

（単位：億円）

	2006年度実績	2007年度実績	**2008年度実績・予想**	増減 05→06	増減 06→07	増減 07→08	増減率 05→06	増減率 06→07	増減率 07→08
設備投資額	295	394	390	120	99	△ 4	68.6%	33.6%	△1.0%
（うち第2四半期累計）	147	160	193	76	13	33	107.0%	8.8%	20.6%
減価償却費	注） 198	245	300	10	47	55	5.3%	23.7%	22.4%
（うち第2四半期累計）	91	110	135	1	19	25	1.1%	20.9%	22.7%
研究開発費	115	136	141	9	21	5	8.5%	18.3%	3.7%
（うち第2四半期累計）	58	66	67	5	8	1	9.4%	13.8%	1.5%
人員（年度末時点）	4,561人	4,686人	4,884人	95	125	198	2.1%	2.7%	4.2%
一株当り当期利益	86.6円	87.0円	54.1円	15.6円	0.4円	△32.9円			
ROA（総資産経常利益率）	10.5%	10.2%	5.2%	1.0pts	△0.3pts	△5.0pts			
ROE（自己資本経常利益率）	23.1%	21.1%	10.4%	0.9pts	△2.0pts	△10.7pts			
配当額	14.0円	16.0円	16.0円	4.0円	2.0円	0.0円			
（うち第2四半期）	6.0円	8.0円	8.0円	2.0円	2.0円	0.0円			

注）2006年度の減価償却費は、特損に計上した88億円を除いた額となっております。

4．経営環境

	2006年度実績 1～6月	2006年度実績 7～12月	2007年度実績 1～6月	2007年度実績 7～12月	**2008年度** 1～6月（実）	**2008年度** 7～12月（予）	メモ
メタノール市況（US＄/MT）	280～300	370～390	370～390	360～380	460～480	350～370	

	上期	下期	上期	下期	上期（実）	下期（予）	メモ
原料キシレン公示価格（円/kg）	99	96	108	103	122	82	
ビスフェノールA（US＄/MT）	1,200～1,600	1,600～1,700	1,800～2,000	1,800～2,000	1,800～2,000	1,800～2,000	主要平均CIF価格
ポリカーボネート（US＄/MT）	2,900～3,100	2,400～2,750	2,600～2,850	2,400～2,850	2,450～2,850	2,450～2,900	日本からの輸出通関統計数値（FOB価格ベース）
為替（円/US＄）	115	119	119	109	106	95